

第45号

(2023年12月1日発行)

発行: 中央大学学員会 出版白門会

CONTENTS

(お名前は敬称略)

▽ 2023 年総会報告	1
▽ 2024 年新年会のお知らせ	1
▽ 白門太陽傳～闘い挑んだ強者たち～(5)	2
「愛されて憂い、憎まれて愉し。～黒部 進のカタルシス～」	
▽ 出版白門会 花見の報告	2
▽ 地図を通して知る東京第 12 回	2
▽ 白門同窓生の本	3
▽ 学員通信 桂 やまと	3
▽ 新役員挨拶	3
▽ 令和 5 年度役員	4
▽ 決算報告・新年度予算	4
▽ 告知板	4
▽ 編集後記	4

出版白門会の関連行事予定

- ① 会報発行 12 月 1 日
- ② 「第 23 回能鑑賞会」
12 月 9 日(土) 12 時開場 13 時開演
会場: 国立能楽堂(渋谷区千駄ヶ谷 4-18-1)
JR 千駄ヶ谷駅より徒歩 5 分
狂言 苞山伏 能村 晶人(和泉流)
能 葛城 大和舞 井上 裕久(観世流)
- ③ 箱根駅伝復路応援(2024 年 1 月 3 日)
ゴール近くの中央大学応援団付近
- ④ 2024 年度新年会
1 月 26 日(金) 18 時 30 分～
第 1 部 新春講演会 「本屋大賞と本の雑誌」
講師 浜本 茂 様(法学部 1984 年卒)
第 2 部 懇親会
会場: 日本出版クラブ(神保町) 3 階
会費: 7,000 円
※後日、出欠確認を兼ねたご案内をお送りいたします。
又は 1 頁右下の QR コードにてお申し込みください。
- ⑤ 街歩き企画 5 月ごろ
※詳細が決まり次第、HP と会員メールにてご案内いたします。
- ⑥ 第 24 回 出版白門会総会
7 月中旬
会場: 日本出版クラブ(神保町) 4 階(予定)
会費: 7,000 円
※後日、出欠確認を兼ねたご案内をお送りいたします。
- 行事に関するお問い合わせは、下記メールにてご連絡ください。
E-mail: pub.hakumon@gmail.com
なお、上記行事のほか、皆さまの仕事に役立つ企画、あるいは懇親の企画を検討中です。



出版白門会ホームページ QR コード

出版白門

● 出版界に出版白門の知恵と情熱を! ●

● 基本方針

1. 会員ニーズに応える活動による、会員満足度の向上
2. 中央大学、学員会、他支部との連携強化
3. 会費徴収促進による、財政の健全化

2023 年総会報告

第 24 回定期総会が令和 5 年 7 月 28 日(金) 中央大学塚原由紀夫常任理事、中央大学学員会久野修慈会長の 2 名を来賓に迎え、35 名出席の下、千代田区神田神保町の出版クラブ会館で開催された。

総会では、竹林会長の進行により、令和 4 年度事業報告、決算報告、令和 5 年度役員、事業計画、予算の 5 議案について報告・提案が行われ、全議案が原案通り承認された。

役員改選では、5 名の新役員が誕生した。理事には堀川隆さん(メトロポリタンプレス)、北村信治さん(メディックメディア)の 2 名がそれぞれ事業委員長、広報委員長を兼務として就任、会計監査に金田徹さん(出版文化産業振興財団)、書記に堤結南さん(中央社)、組織委員長に古寺雄大さん(講談社)がそれぞれ就任された。また、長年理事をお努めいただいた白石紀一さん(檜書店)安部英行さん(学事出版)には今後も顧問として会の運営に携わっていただくこととなった。

第二部の懇親会では、3 年ぶりに声を出し

ての校歌斉唱で幕を開けた。はじめに来賓の中央大学塚原常任理事から新キャンパスや大学の新たな取り組みなどについての興味深い報告を兼ねた挨拶があり、学員会久野会長からはロシアのウクライナ侵攻や地球温暖化を話題にしながら自らの体験談なども含め、これも大変興味深い挨拶をいただいた。

続いて竹林会長から挨拶があり、今後の会の更なる発展を祈念した乾杯の音頭があり、懇親会がスタートした。

途中行われた、久々の参加の森山光さん(日販テクシード)による挨拶と、新年会に続き古寺新組織委員長の紹介により参加した現役学生 7 名による自己紹介に対して、会場から盛大な歓迎の拍手が沸き起こった。

懇親会では恒例の「テーブル対抗中大クイズ」がこちらも 4 年ぶりに丹田公和さん(元毎日新聞出版)の作問、司会により開催され、大いに盛り上がった。

最後に、森岡副会長による「なぞかけ」を織り込んだ楽しくも見事な中締めで、名残を惜しみつつ閉会となった。



2024 年新年会のご案内

本年は 1 月の新年会、7 月の総会といずれもリアルで開催できましたので、2024 年の新年会も、感染症対策を徹底したうえで行うことといたします。

ご参加の皆様にはお手数をおかけしますが、何卒ご理解とご協力をいただき、ふるってご参加下さるようお願いいたします。

★日時

2024 年 1 月 26 日(金) 18 時 30 分～
日本出版クラブ(神保町) 3 階

★内容

第 1 部 新春講演会 「本屋大賞と本の雑誌」
講師 浜本 茂(法学部 1984 年卒)

第 2 部 懇親会

★会費

- | | |
|----------------|---------------|
| ・ 当会会員 | ¥7,000 |
| ・ 会員以外の中央大学卒業生 | ¥5,000 |
| ・ 中央大学現役学生 | ¥3,000 |
| ・ 中央大学卒業生以外 | (学生含む) ¥7,000 |

出版白門会ホームページアドレス <http://pub-hakumon.jimdo.com/>

facebook 出版白門会サイトへのアクセスは検索サイトの「出版白門会(中央大学学員会職域支部)」から…



白門太陽傳

闘い挑んだ強者たち〈5〉

愛されて憂い、憎まれて愉し。

志賀 コージ

～黒部 進のカタルシス～

昭和41（1966）年の夏、光の国からボクらのために、ウルトラマンはやって来ました。彼の分身である、科学特捜隊のハヤタ隊員を演じたのが、26歳の若手俳優・黒部 進でした。この当時、これから売り出そうという若い役者が特撮の“ヒーローもの”を演じるということは、業界内ではどこか冷やかな視線を浴びることでした。今はまるで真逆の反応ですね。

黒部 進は、中央大学在学中より演劇に興味を持ち、同時に都会の誘惑に抗えずに遊び呆けた挙句、家賃滞納によりホームレス状態となりながらも、幸運にも東宝ニューフェイスにトップ合格をします。鳴かず飛ばずの時期を経て、ようやく掴んだのがハヤタ隊員の役でした。にもかかわらず、特撮もの、何よりもそのユニフォームが派手なオレンジ色だったこともあり、不意ながらも生活のために演じました。国民的人気番組ともなっても、当の本人はどこか後ろめたささえ感じ、人に自慢できるものではないと長年思い続けていたのです。

時は流れて還暦を迎えた頃、その思いは消えました。今なおシリーズが受け継がれ、海外でも高い人気を得る『ウルトラマン』。当時の制作スタッフたちの情熱と、作品の持つ高いクオリティを改めて思う時、出演したことに誇りを持つようになりました。『ウルトラマン』後の黒部 進は、国民的ヒーロー像のイメージを果敢に脱ぎ捨て、悪代官や憎々しい犯人などを生き生きと演じて高く評価されました。同時に、その落差には、私を含めた多くのファンが驚かされたものです。きっと彼の中の「カラータイマー」が、役者・黒部 進をより大きな空へと飛び立たせる為に点滅したのかも。それは“百鬼夜行”の芸能界には、さまざまな“怪獣”たちが待ち構えていることへの「光の国」からの警笛だったのでしょうか。正義のヒーローからダークなバイプレイヤーへの鮮やかな変身は、あのスペシウム光線にも勝る輝きを放っていました。



志賀 コージ（しが こうじ）

1958年東京生まれ。イラストレーター、エッセイスト。数々の名作映画から人生を学ぶ。心打つ映画に触発され10代から描き続けているスタアの似顔絵はゆうに千枚を超える。近年は名作映画の魅力と共に、あらゆるエンターテインメントの芸術的遺産と感動の数々を、イラストを通して伝えることをライフワークとしている。〔著書〕『映画スタア似顔絵 昭和館 シャイでクールでお熱いのが好き』、『映画スタア似顔絵 昭和・平成館 続シャイでクールでお熱いのが好き』（いずれも里文出版刊）ほか。

出版白門会・花見の会 石神井川沿い遊歩道散策（王子～板橋）

3月25日（土）は東京に桜の満開が宣言されてから初めての週末となりました。前日からあいにくの雨模様でしたが、当日午後、6名がJR王子駅に集合。奇跡的に雨も小止みとなり、王子駅に隣接する音無親水公園から飛鳥山を背にして出発。石神井川兩岸の桜並木を眺めながら遊歩道沿いを散策しました。

北区から板橋区にかけての石神井川べりは、桜や紅葉の名所として兩岸に歩道が整備され、要所に江戸の史跡スポットなども見られます。一行はゆっくり1時間ほど歩いて板橋区加賀の金沢橋に到着。「加賀」は旧前田藩邸にちなむ地名で（加賀藩主前田家の江戸下屋敷跡）、近辺は桜の撮影に好適なスポットともなっているためしばしば滞留。その後、金沢橋から遊歩道を離れてJR十条駅へ。ここで打上げからの参加者と合流し、十条駅に近接する演芸場通りの大衆割烹「田や」に入ると、改めて総勢9名が秋田料理を肴に乾杯。親交をあたため大いに盛り上がりました。

なお今回は幹事中心の実施となりましたが、次年からはコロナ禍以前のように広く会員の皆さんに参加いただけるような花見の会にしていく予定です。

（堀川 隆）



地図を通して知る東京 第12回 浜離宮・芝離宮

本会の定番行事も12回を数えます。今回は浜離宮と芝離宮という都立の大名庭園を訪ねました。

5月20日（土）、大江戸線・汐留駅に集合した参加者は9名。コーディネーターの小竹本会顧問の案内で、まずは浜離宮庭園大手門口へ。

〈浜離宮庭園にて〉 潮入の池（海水を導入し潮の満ち干によって趣を変える様式の池）、2つの鴨場、鷹番所、八景山～富士見山などを順路に沿って見学。限られたスペースを広い奥ゆきに見せる作庭技術の解説などに耳を傾けながら磯の香りが漂う園内を1時間ほど散策しました。往時は見えていたはずの海や富士山のかわりに周囲に屹立しているビル群と園とのコントラストがなかなかシュールでした。

浜離宮を「中の御門」口から出て外構の堀と石垣を見ながら汐留通りを芝離宮へ向かう道すがら、小竹顧問の案内に力が入ります。

「この堀こそ『汐留』です。江戸幕府は外様大名であった伊達家、脇坂家、保科家に江戸湾を所領として与え埋め立てを命じた。大量の柵（しがらみ）を作り土砂が流出しないよう隙間に貝を埋めて土を盛るといった当時の先端技術で東京ドーム2個分の広大な土地を出現させたのです。この水路と石垣をじっくり観察願いたい」（文言は当日配布資料より）

江戸の名残りをとどめる遺構を前に、一同、気を引き締め直して芝離宮へ。

〈芝離宮庭園にて〉 浜松町駅に隣接する当園は浜離宮同様、かつて潮入の池を有し、また庭師が工夫をこらした西湖の堤～中島～枯滝～大山など内外の名所を園内に見立てた盛り沢山な大名庭園でした。新幹線からも見えそうな所にこんな広々とした空間があったのか、これは発見だったと一同感入りました。

両庭園の散策を終えたころには日も傾きかけ、浜松町で懇親会を行い、からからに乾いた喉を潤し散会となりました。

（堀川 隆）



① 浜離宮大手門口にて



② 小竹顧問の解説に耳を傾ける



③ 浜離宮／富士見塚より園内を眺望



④ 浜離宮／富士の方向に高層ビル



⑤ 芝離宮／浜松町駅に隣接する穴場スポット



⑥ 懇親会／このひと時のための1万歩？

白門同窓生の本

『韓国エンタメはなぜ世界で成功したのか』
菅野 朋子 (著)、1,045 円 (税込み)、文春新書刊

著者は昭和38(1963)年生まれ。中央大学文学部卒業後、延世大学校付属語学堂に語学留学した後『週刊文春』の記者となる。現在はソウルに在住しフリーランスのノンフィクション作家として活躍している。

本書は著者の経歴が示すように、韓国社会に深くコミットし韓国エンタメ界に精通した情報を基に書かれた、韓国エンタメの光と影(闇)のレポートである。

前半の光の部分では、1990年代後半「韓国の大衆文化が日本のそれに飲み込まれてしまう」「韓国が日本文化の植民地になる」という警戒感から、日本の大衆文化が韓国で禁止されていた時代を経て、日本の大衆文化輸入の段階的な解放後、韓国のエンタメが日本を追い抜き、グローバルな成功を収める過程が書かれている。

現在の韓国では、日本のエンタメ作品が話題になることはそれほど多くなく、逆に日本では、「韓流」ブームや、J-POPをしのいでしまったK-POPのように、韓国エンタメが日本を席巻している。本書では、この逆転現象に至る韓国の国を挙げての施策や「デジタル化というグローバルな波に遅れまいと次々と新たな挑戦を続けてきた韓国のエンタメ産業」の努力を描いている。一方、日本のコンテンツが世界で広がりを見ない根本的な問題として、十分な市場規模を持つ内需に満足してしまったということに言及している。

前半で、今や、日本のエンタメを凌駕し自信に満ちた韓国を描いているのに比し、後半はまだ韓国エンタメ界(韓国そのものに言える)が内包している前近代的な影からあ

ぶり出されてきた、おぞましいスキャンダルの数々に書き及んでいる。「性接待」「ハッキング」「人気投票の不正操作」「悪質リプライ」「女性嫌悪(ミソジニー)」等々、枚挙にいとまないが、それに伴う若いタレントの相次ぐ自殺など、痛ましい出来事も報告している。

日韓国民が、普通の会話ができるようになりつつある今、ソウルに在住する著者の、エンタメ産業を超えた、今後の韓国レポートに注目したい。

(広報委員 丹田 公和)



学員通信

桂 やまと

どうも皆さまこんにちは。落語家の桂やまとです。……ってそう挨拶していますが、実はいまだに迷っていることが。それは、私が「落語家」なのか「噺家」なのか？ 芸歴25年目にしてまだ答えが出せない超難題。

辞書には同義としてありますが、厳密には違うかなと。落としばなしを楽しく語る「落語家」か、それとも落ちがない話でも新鮮に聴かせる「噺家」か。うーん、どっちだろう……。

なんて悩んでいるわりには、TPOに合わせて「私は噺家です！」と言ったりするので、この先そんな場面に遭遇されましても何卒ご容赦くださいまし。

さて私は文学部で心理学を専攻し、平成11年卒業後すぐ桂才賢に入門しました。「めっちゃくちゃ心理学勉強したぞ～」と実感したのは4年生の時くらいで……あとは落研(中大は「オチケン」ではなく「ラッケン」)の活動に全精力を注ぎました。

中央大学落語研究会は創部から65年以上経ちますが、今も指導役として現役たちと関わることができて有り難い限りです。

中大落研は創部以来プロを出さない掟がありました。初代の指導役であり落語界の大御所、九代目桂文治からの「本職になるなんて思わずに道楽でおやんなさい」というこの教えがすべてでした。私はその大事な掟を

破った第一号というわけで。

目指した師匠は当時指導役だった桂才賢。両親やOB諸氏の大反対を押し切ってプロになったからには、何があっても辞めないと強く誓いましたが、うちの師匠の修行は他と比べても明らかに厳しかった。うん、明らかに。な

んたって才賢は元海上自衛官ですから。「軟弱な芸人とはワケが違うんだッ！」と当人も常日頃から言っておりました。その言葉に偽りなし……。でもそのおかげで今の自分があると感謝しております。

「何でもチャレンジしてこい！」というのも教えのひとつ。今年は映画の世界にも初めて挑み、藤竜也さん主演の『高野豆腐店の春』に出演。しかも私はあの麻生久美子さんの恋人役という……もう二度とない大チャンスを



オーディションで掴むことができませんでした。

また独演会も二ツ目時分からずっと続けていますが、真打からスタートした会は12月17日(日)で通算100回を迎えます。

毎年恒例『文七元結 補訂/岡田嘉夫』は画家の岡田嘉夫先生が私にあてて書き下ろしてくださり、「人情噺の桂やまと」の真骨頂。今回はこの記念すべき節目にお届けいたします。

ぜひ噺家の桂やまとを……いや、落語家の桂やまと……ってもうどっちでもいっか！ こんな私を今後ともどうぞよろしくお願いたします。



新役員挨拶

●理事(事業委員長兼任)・堀川 隆

書籍の編集者として人文書や辞事典などの企画編集を手がけ、神保町の勤め先をリタイア後もスローに現役続行中。顧みて出版業界には営業的なネットワークはありますが、編集領域では勉強会止まりが多く、私の場合は横の繋がり作りに難儀しました。だからこそ白門同窓の出版人という少し次元の異なるチャンネルを多くの方に活用いただきたいと思ひます。使いでのある会であるために些かでも役に立てばと考える次第です。

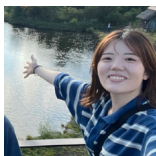


●広報委員長兼任・北村 信治

医学書業界に身を置いて早や四半世紀、営業職で全国を飛び回っております。出版業界もデジタル化の波がかなり来ていると肌で感じています。フットワークの良さを武器に出版白門会の発展に寄与できるよう特にデジタル回りを中心に精一杯頑張らせていただきます。出版業界に動める「白門人」を広報活動を行って振り出すことができれば嬉しいです。引き続き宜しくお願い申し上げます。



●書記・堤 結南



このたび書記に就任することになりました、堤結南です。

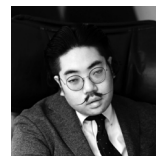
2022年に理工学部経営システム工学科を卒業しました。現在は取次・中央社の書籍仕入課に所属しております。大学時代は体育会少林寺拳法部に所属しておりましたので、動くことと食べることはお任せください。これからも行事等積極的に参加していきたいと思っております。至らない点ばかりですが、先輩方から学ばせていただき頑張っていきます。何卒よろしくお願致します。

●会計監査・金田 徹



第23回総会で会計監査の任を拝命しました。2014年まで幹事会の一員でしたが、転勤、出向等があり退任。改めて会員の皆さまと活動を通じてより気軽にコミュニケーションを図れるよう取り組んでまいります。現在は出版文化産業振興財団に勤務。昨年8月に還暦を迎え、今年6月に坂東三十三観音巡礼で結願の証を授受。8月には富士山登山に初挑戦、頂上久須志神社に登頂。毎週日曜日は地元でソフトテニス。健康に留意して頑張りま

●組織委員長・古寺 雄大



この度、組織委員長の任を拝命しました古寺雄大と申します。2016年に文学部人文社会科学科社会学専攻を卒業した後、「サイゾー」という総合月刊誌で8年間編集者として叩き上げられ、今年の2月からフリーの編集者として『週刊現代』編集部に移籍しました。2015年、出版白門会の新年会に参加した際、OBたちの愛校精神に感化され、「出版業界に入って、絶対にこの会に入るんだ」と思っていました。まさか組織委員長になるとは……。何卒よろしくお願いたします。

令和5年度役員

会長 竹林 聡 (図書館流通センター)
副会長 一戸 裕子 (羊土社)
理事 森岡 憲司 (中央社)
堀川 隆 (メトロポリタンプレス)
北村 信治 (メディックメディア)
幹事長 齋藤 毅 (エデュプレス)
副幹事長 阿部 信行 (万引防止出版対策本部)

書記 高木 浩行 (元トーハン)
堤 結南 (中央社)
会計 島崎 修 (ディスカバリー)
藤原 隆通 (日経BP)
会計監査 金田 徹 (出版文化産業振興財団)
組織委員長 古寺 雄大 (講談社)
事業委員長 堀川 隆 (メトロポリタンプレス)
広報委員長 北村 信治 (メディックメディア)

顧問 小竹 正倫 (元地図協会)
顧問 白石 紀一 (檜書店)
顧問 朝妻 伸雄 (元集英社)
顧問 風間賢一郎 (元中央社)
顧問 安部 英行 (学事出版)
顧問 鹿谷 史明 (元ダイヤモンド社)
顧問 森 武文 (元講談社)

決算報告・新年度予算

中央大学学員会出版白門会 令和4年度決算報告

自 令和4年4月1日 至 令和5年3月31日

収入の部		(単位:円)	
科目	決算額	摘要	
前年度繰越金	989,017	前年度からの繰越金	
会費収入	230,000	年会費5,000円×44人、年会費法人会員10,000円×1法人	
各種会費収入	397,000		
(内訳) 総会費	217,000	6,000円×29人、学生3,000円×1名、学員会祝金、大学祝金	
新年会会費	180,000	6,000円×30人	
その他	0		
学員会補助金	100,000	支部活動支援費(100,000円)	
寄付	11,565	幹事寄付	
雑収入	11	会計口座利子	
総計	1,727,593		

支出の部		(単位:円)	
科目	決算額	摘要	
事業費	733,980	総会関連費用、新年会関連費用、会報製作費など	
(内訳) 総会費	292,216	令和4年7月15日	
理事会費	16,200	令和4年7月15日	
新年会費	303,401	令和5年1月20日	
幹事会費	0		
会報製作費	107,072	会報42号、43号製作費、発送料など	
その他事業費	15,091	年会費納入者向け図書カード代、ZOOMアカウント料など	
事務費・雑費	6,798	振込手数料など	
慶弔費	0		
交際費	0		
繰越金	986,815	次年度への繰越金	
総計	1,727,593		

中央大学学員会出版白門会計
島崎 修
藤原 隆通
中央大学学員会出版白門会計監査
土屋 隆一

中央大学学員会出版白門会 令和5年度予算

自 令和5年4月1日 至 令和6年3月31日

収入の部		(単位:円)	
科目	予算額	摘要	
繰越金	986,815	前年度からの繰越金	
会費	238,000	入会金1,000円×3人、年会費5,000円×45人、法人会員10,000円×1法人	
各種会費	510,000	総会費、新年会会費、その他事業参加費他	
(内訳) 総会費	230,000	6,000円×30人、2次会費など	
新年会会費	230,000	6,000円×30人、2次会費など	
その他会費	50,000	その他事業会費	
学員会補助金	110,000	支部活動支援費100,000円、講師料補助10,000円	
寄付金	10,000	幹事寄付など	
雑収	11	会計口座利子など	
合計	1,854,826		

支出の部		(単位:円)	
科目	予算額	摘要	
事業費	797,200	会報製作費、総会関連費用、新年会関連費用、その他事業活動費など	
(内訳) 総会費	293,000	会場費、案内状等印刷代・発送費など	
理事会費	16,200		
新年会費	303,000	会場費、案内状等印刷代・発送費など	
幹事会費	5,000		
会報製作費	100,000	年2回(4月、10月)発行予定	
その他事業費	80,000	各種事業費、ZOOMアカウント料など	
事務費・雑費	10,000	事務用品、交通費、振込手数料等	
慶弔費	10,000		
交際費	30,000	学員会出席祝儀など	
繰越金	1,007,626	次年度以降に繰り越すべき会費等	
合計	1,854,826		

中央大学学員会出版白門会計

編集後記

出版白門会に限った話ではありませんが、多くの同窓会組織では「若手」と呼ばれる層の在籍が少なく、会の運営が厳しくなる傾向にあります。

国内有数の卒業生組織である、「慶應義塾大学・三田会」は「3人集まれば三田会」が結成できる…というくらい、愛校心熱い方々がいらっしゃるようです。私自身、慶應義塾大学ビジネススクール(KBS)にて勉強した経験があり、年数回の「自主勉強会」に参加しており、仲間とストレスな関係をいただいています。「今度、慶早戦(野球)一緒にいかない?」「KBSの仲間同士で情報交換飲み会しよう!」といった具合に片足三田会の一員です。

何か、こんなフレンドリーな文化が我が白門には薄いような……。「付きつ離れずな関係」が白門の個性かもしれません。この個性を生かしながら「若手」の心を掴む企画を出版界から発信していきたいものです。

(北村)

告知板



■①出版白門会ホームページのご案内

アドレスは <http://pub-hakumon.jimdo.com/> です。Google や Yahoo といった検索サイトで「出版白門会」を検索すると上位にヒットしますので、そこからのアクセスも可能です。

②1頁にも掲載しましたが、スマホ/モバイルデバイス(iPadなど)にてQRコードを読み取ると、ホームページにアクセスしますので、ご利用ください。

③出版白門会事務局へのご連絡は下記メールアドレスをご利用ください。

E-mail: pub.hakumon@gmail.com です。

■会費未納(2020年度以前)の皆様へ(年会費金額¥5,000)

①同封の振込用紙にて、もしくは下記口座へお振込みをお願いいたします。

郵便振替口座記号番号 00180-8-600659

加入者名 中央大学学員会出版白門会

振込用紙がなくても、直接郵便局の窓口やATMでも手続きができます。ゆうちょ銀行の口座をお持ちの方は、ゆうちょダイレクト(パソコン、携帯、スマホなど)もご利用いただけます。

②他行(銀行など)からの振込みをされる場合は下記口座をご指定のうえ、手続きして下さい。

ゆうちょ銀行 当座預金

店名(店番) 〇一九(ゼロイチキユウ)

口座番号 0600659

口座名義 チュウオウダイガクガクインカイシュッパンハクモンカイ

出版白門会は皆様の会費のみで運営しております。ご協力のほど何卒よろしくお願いたします。